

2020年度(令和2年度) 事業報告書

2021年2月

滋賀県大津市大萱六丁目1

総合型地域スポーツクラブ

特定非営利活動法人瀬田漕艇俱楽部

代表理事 黒田 士朗



2020年1月19日 第32回全国マシンローリング大会近畿ブロック大会

[1] 2020年度活動報告

1特定非営利活動

2020年度定期総会にて以下の目標を掲げ、年間活動に取り組んだ。

- 1.全体 倶楽部理念や建設の趣旨に沿ったFurukawa Houseの活用を検討・実践し、世代を超えた会員間の交流や他団体との交流を活発化する。
三大事業を中心に運営を進める。より良い俱楽部運営体制の検討。
認定NPO法人への寄附金優遇税制を活かした、賛助会員の拡大策の検討・実施。
- 2.安全 (1) 安全規則の隨時見直し(初版2005年)。
(2) 安全講習会実施、沈回復の練習会の実施。
(3) インシデント・アクシデントレポート作成の推進。
- 3.保全 整理整頓という基本的な事を皆で行える様、まずはあるべき姿を管理、そしてそれを維持する所から取り掛かる。またクラブの設備・備品で経年劣化して来ているものについて、皆でそれらに対する情報や意識を共有できる様になる。
- 4.施設 老朽化した所の対応、使い勝手を見直した修繕計画と備品購入計画。
- 5.事務 各担当者との連携による円滑な事務作業。事務局のあり方検討とより良い俱楽部運営への貢献策
- 6.特別 びわこ市民レガッタの参加者100クルー(500人)以上。地元企業、自治体、自治会から募る。
Head Of The SETAの参加者800人以上。各ボート団体への個別交渉。
近畿マシンローリングA大会を運営し、参加者1,000人以上。
三大事業合計150万円以上の収支を得る。
プロ(有給)コーチによる、小学生ボート教室や会員向けコーチングを継続・拡大する。
- 7.普及 ボート・ドラゴンボート・カヌーの体験教室をクラブ全体で運営し、年250人を目標とする。新たな普及活動を検討・実行していく
- 8.収益 ウェブを活用して、年間50万の収益確保に取り組む。
新たな収益財源確保に向けて具体案を検討する
- 9.財務 正・賛助会員拡大に向けてのツール作成。会計フローの整理・定着化。
- 10.広報 月一回の確実な会報発行。
- 11.活動 倶楽部運営収支100万円、NPO事業収支200万円、収益事業収支50万円の計350万円の現金
収支を確保するための、工夫・新たな取り組みを計画、実行
選手チームは、全日本選手権でのメダル獲得を目標とする。選手層のメンバー獲得を推進する。
杉藤コーチの指導のもと、競技力強化、魅力ある選手チーム作りを進める。

【総括】

2020年度、本来であれば東京オリンピックが開催され、世界トップクラスのNZオリンピックチームが事前合宿で艇庫を利用し、世界トップクラスの漕ぎ、雰囲気を感じられるはずであったがコロナウイルスのために多くの事業が中止となる。また、4月4日から5月19日までコロナ感染対策の一環として俱楽部活動を自粛。再開後も練習道具の消毒、三密回避等各自の感染予防対策を実施。俱楽部員の皆様には大変なご負担をかける。

この中で実施された事業は1月に900人以上を集めたマシンローリング大会、ジュニアボート教室、「しがスポーツ大使」としての冬季のマシンローリング教室の開催が主なもの。びわこ市民レガッタ、Head Of The Seta等の事業は中止。国からの持続化給付金2,000千円を申請し認可、受領。今年度はコロナウイルス感染に注意を払い、事業を実施予定。実施にあたっては俱楽部員の多くの方の知恵・経験と協力が今まで以上に必要になる年となる。

競技活動において多くの大会が中止となつたが、西日本選手権女子1×でワンツーフィニッシュ、全日本選手権では女子1×(西原)が3位と2年連続で表彰台に登る等の素晴らしい実績を挙げてくれた。実業団チーム、大学運動部に比べ制約も多い中で、杉藤コーチによる指導体制をさらに強化し、俱楽部設立当初から掲げている「チャンピオンクルーから日曜スカラーまで」を実現するため「チャンピオンクルーの育成」の取り組みを着実に前に進めることが、当面の課題である。その為には、コーチや選手の努力だけでなく、多くの会員の積極

的な支援・応援が必要であり、多くの会員が支援・応援したくなるようなチームであること、そう思えるような選手達の熱意や行動が必要であると考える。

整備面においては艇庫東側の整地が完了。またアネックス裏の湿地も整地が完了。俱楽部員の方々のご寄付と作業へのご協力には感謝。整地面の活用、艇庫の下、船台の下の整地が出来るように進めて行きたい。

2020年度のNPO事業は▲660万円の赤字予算であったが、▲580万円の赤字となる。アネックス屋根塗装未実施(本館塗装、隣地埋立等は実施)があるがコロナウイルスの感染防止のため事業が行われず、収入源が限られていたなか会員の皆さまからの整地事業での寄付金160万円、給付金200万円が大きく寄与。

2020年度末の会員数は、正会員145名(家族会員24名)、賛助会員69名で、昨年度末から正会員は▲21名減少。例年に比して新入会員の入会が、コロナウイル感染予防のための俱楽部活動自粛期間もあり9名と少なかったと考えられる。

(1)ボート等競技大会開催或いは開催支援活動

① ボート競技大会開催

全国マシンローリング大会近畿大会(2020年1月19日)

今大会も、ウカルちゃんアリーナ(滋賀県立体育館)で開催。本大会は、903名の事前エントリーがあった。

今大会では、カナダより2名の選手を招待した。Julien Bahain 氏はオリンピックや大西洋横断の経験などを講演し、Charles Alexander氏は日本国内初となる2000m5分57秒という新記録を出した。エリートコースで観客を魅了すると共に、会場で日本人選手との交流を行った。

演出部門では新たにDJの生演奏を行った。仙石幸一さんによるMCと、照明での演出も用いて、会場全体を盛り上げる取組みをした。

また、今大会も2000m測定以外のイベントを複数実施した。カップルスライドエルゴでは、優勝賞品であるSwift Racing様提供のコースタル艇をかけて、男女ペアで1000mの速さを競った。大阪府立大学のペアが優勝し、豪華景品を手に入れた。他にも、NTT東日本漕艇部コックスの佐々野選手と関西大学コックスの川崎選手によるトークセッションや、メイクアップアーティスト川本詩音さんによるアートメイクなどを実施。ただ測定するだけではない、新たな文化を展開することができた。

全体での収入は186.6万円(昨年348.7万円)、支出は154.0万円(昨年252.6万円)で、収支は32.6万円(昨年96.0万円)であった。今年はホストタウン交流事業を行わなかった為、昨年より収支が減少した。エンタリーの増加やスポンサー獲得で収入を増加させ、安定して収益が出せる大会運営が必要。

第15回びわこ市民レガッタ

今大会は、新型コロナウイルス蔓延が収束する気配もなかったためやむなく中止した。中止を判断した主な理由は以下の通りである。

- ・ 漕艇場が改修工事中であり、参加者の待機場所が狭く密の状態になる
- ・ 各クルーが乗換えるごとに配艇とオールの洗浄・消毒をする必要があり、レースの円滑な進行に影響を与える

大会中止としたため、収入・支出ともゼロであり、残念ながらクラブ運営に貢献することができなかった。次回(2021年)の開催予定日は、9月12日である。オックスフォード盾・全日本大学選手権と開催日が重なるため、OB/OGの参加が減少する可能性もあるが、多くの方が参加できるよう、運営案を練り上げていきたい。

クラブ員の皆さんには、当日のスタッフ従事や練習会・準備へのご対応をいただけるよう、ご協力をよろしくお願ひいたします。

第29回 HEAD OF THE SETA

今大会は、新型コロナウィルス蔓延が収束する気配もなくやむなく中止。収入、支出共にゼロであり収益面での貢献は出来なかった。2021年は11月13日、14日開催予定。実行委員長も交代しており俱楽部員皆様の協力をお願いしたい。

② ボート競技会等開催支援活動

ボート競技会等の開催支援

ボート競技では滋賀県県民体育大会、高校秋季総体に審判を派遣した。

(2) ボート競技の指導等・普及に関わる事業活動

①セミナー・講習会の開催

2020朝日レガッタコーチセミナー兼公認スポーツ指導者義務研修会

新型コロナウィルスによる大会中止に伴い、コーチセミナーの開催も中止とした。

③ 水上スポーツ教室の開催等

初心者ボート体験教室(2020年7~11月毎月第2、4日曜日)

通常は5月から開催しているが、5月、6月は活動自粛となったため、7月から11月の活動期間となった。また、びわこ市民レガッタも中止となり、この練習としての利用もなくなった。このため、例年、延べ約100名の利用があるが今年度は約30名にとどまった。それでも初心者として参加された方にはエルゴメーターを使用して基本動作の練習と艇の基本的な扱いを説明した後に乗艇を体験してもらい、ローイングの楽しさや湖上からの眺めを楽しんでいただいた。また、ドラゴンボートの利用についても、6名と少なくなった。

ひき続き参加者に水上スポーツの魅力を伝え、幅広い年代の会員増につなげられるよう貢献していくたい。(収入実績: 2018年約21万円、2019年約22万円、2020年約7万円)

ドラゴンボート体験(セタシジミ祭)

2020年の「セタシジミ祭」は、新型コロナウィルスの影響により中止となった。

ジュニアボート教室

滋賀レイクスターズとのコラボレーションで実施している地域の小学生対象のボート教室。事務局としての仕事をレイクスターズが担い、指導面を杉藤コーチが中心に、スタッフ調整を猪飼さんが中心になり、マネジメントを行なって実施した。

ジュニアボート教室の指導内容については、杉藤コーチのバリエーションある指導内容を基に、毎回充実した指導を行えている。しかし来年度の生徒は現状1名であり増員を含め滋賀レイクスターズと協議が必要。

(3) 水上スポーツ活動の支援

安全管理に関する活動

① 安全講習会の開催(3/29) 出席者42名

実際に琵琶湖で起きた事故を元に、安全なクラブ活動を再度呼びかけ。

琵琶湖における航路の確認と瀬田川航行ルールの確認。

② 沈回復練習会については有志による実施。

③ 琵琶湖漕艇場からの注意喚起メールを会員に転送。

→瀬田川及び琵琶湖での工事や藻刈り作業、及び洗堰の全開放流時の連絡。

④ 水上事故のフォロー

安全講習会

県ボート協会主催の安全講習会に参加。(12月オンライン)

→事故事例を水域使用団体に報告

アクシデント・レポートの作成(随時)

乗艇中に事故を起こした会員は、アクシデント・レポートの提出

安全規則

2019年度に改正済の全開放流時のルールを修正。

改正前:洗堰全開放流の場合は瀬田川での練習禁止

↓
ただし、モーターボートによる伴走ある場合は琵琶湖での乗艇は認める。

改正後:洗堰全開放流の場合は乗艇禁止。

ただし、①モーターボートによる伴走ある場合は琵琶湖での乗艇は認める。

②一定の条件(※)を満たす漕手については特に認める。(琵琶湖のみ)

※A:クラブ内もしくは県主催安全講習会参加

B:エルゴスコア2000m8分45秒以内

C:1×での1000mタイム5分以内

上記ABCを全て満たす場合は理事承認の下で認める。

②については、クルーボート乗艇については、クルー全員が条件を達成できていること。

(通常の練習の範囲内で達成できていれば、そのスコア提示すればOKとする)

平日シニア組の冬期乗艇自主ルールについて

練習中に仲間を亡くすという悲しい過去の経験を二度と繰り返したく無いという思いから、平日シニア組は冬期における乗艇自主ルールを策定し、守って頂いています。

以下自主ルールの抜粋

- ① ヤフーなどの天気予報で朝の9時が5度以下 乗艇禁止
5度以上 水温10度以下 シングルスカルはコースのみ
- ② 乗艇前にストレッチ エルゴで体を温める
- ③ 携帯 ホイッスル 所持
- ④ 救助方法の確認 漕艇場 か 救急車か

(4) ボートに関する情報発信

クラブの月刊機関紙「漕艇通信」(会報)の月末発行、ホームページを活用した情報発信等を行い、クラブの活動に関する最近の情報を提供した。引き続き、「漕艇通信」はホームページ上で公開している。

(5) 選手競技活動

各大会が見送りとなり本シーズンとしては西日本選手権、全日本選手権の2レースのみの活動となった。

女子は嶋美陽がシングルスカルで全日本選手権に出場したが敗者復活戦敗退

男子は舵手付きフォアとして全日本選手権に出場 敗者復活戦敗退と厳しい結果になった。

全日本選手権における同種目の出場は初の試みであり、新しいトレーニング状況確立に苦戦した。

結果としては選手能力底上げにはわずかながら前進が見られた。

プリントバック西原佳が全日本選手権で女子シングルスカル3位入賞を果たしたが

昨年より順位をひとつ落とす結果になってしまった。

また日本代表選考レースにも出場したが3位となり代表権獲得には至らなかった。

(6) その他の活動

① プロコーチ杉藤氏によるコーチング

年額270万円(年300セッション)を毎月按分する形で、杉藤コーチにお支払いをしている。シーズン中は週6回1時間半～2時間程度のコーチングの日を設置。マスターズメンバーへのコーチング(週1回)、選手チームのコーチング(週2回)及び年間のメニュー等作成、ジュニアボート教室でのメインコーチとして活動(週1回)以外に、高校生を対象に、毎週月曜日と木曜日の夕方にコーチング(週2回)をしていただいている。また、今年度は、不定期で週末しか参加できない会員に対してのコーチングを実施した。

毎月の活動内容(指導方針・指導日数)については、杉藤コーチより月報を提出していただいているが、現状の運用の課題や選手からの要望などを伺いながら、コーチングの内容について随時協議を進めながら運営を行っていく。

今期においてはシニアチーム中心の指導。定期的に理事と面談を行い選手間とのパイプとなり、環境を整えていく予定。

② 全員集合日の実施

月例全員集合日を実施した。清掃/艇整備/施設補修などをおこなった。コロナ禍の影響によりクラブに集合できずに毎月実施できなかつたが、ANNEXの東側のドラゴン置き場の屋根と壁の更新や、更に東側に拡がる土地の開墾・整地を行い、クラブ敷地内の整理・整頓を進める事が出来た。

③ 施設関連実施事項

日常のメンテナンスを実施した。各所不具合対応、備品の購入など

2020年度実施工事関係

1/27～2/26

本棟:外装塗装工事

本棟:2階トレーニング室エアコン設置工事

Fハウス:西側排煙オペレータ改修工事

3/30 Fハウス:玄関窓塗装工事

6/15～6/18 外構:本棟東側整地工事

6/13～6/28 アネックス棟:西側屋根葺き替え工事

7/15 本棟:女子シャワー室スイッチ改修工事

8/2 アネックス棟:西側屋根下整地工事

8/23～11/1 外構:アネックス屋根西側整地工事

12/4 本棟:2階更衣室(男女共)24時間換気設置工事

12/10 大津市による不法投棄船撤去

12/18～1/15 ごみコンテナ設置による不要品整理

④ 大会への役員派遣

関西ボート連盟、滋賀県ボート協会、京都ボート協会、大阪ボート協会、大津市ボート協会等主催の大会にて、役員活動を行なつた。

⑤ メディア出演等

1月22日 京都新聞 地域面 タイム みんなちがってみんないい

※杉藤さんが近畿マシンローイング大会の招待選手について紹介

1月24日 FISA(国際ボート連盟)HP Alexander sets record at Japan's indoor rowing championships

1月28日 TV大阪 やさしいニュース 「やさスポ」 ボートも仕事も全力！五輪目指す23歳

※仕事と両立しながら東京五輪を目指す西原佳選手を紹介

2月12日付 読売新聞 地域面 ボートマシン タイム競う 大津で大会900人参加

レイクスマガジンVol 101 2月号 レイクスマグナム Vol 11
ついに国内初“6分切り”が飛び出した。国内最大規模のマシンローイング大会
月刊Rowing No555 2019年12月号 ※Head of The Setaが表紙に登場
3月13日 びわ湖放送 SOSE編集部 ゲームコンダクターSHIGAを紹介する際に近畿マシンローイング大会が登場
3月14日 毎日放送 せやねん オリンピック代表を目指す西原選手を紹介
レイクスマガジンVol 102 3月号 特集スポーツのある日々 連携 ポートスクール
滋賀レイクスターズと連携して実施しているジュニアボート教室を紹介
9月29日 京都新聞 1面 東京五輪の風 第14部コロナの陰影
新型コロナウイルス感染症の影響により受け入れ対応の再調整に杉藤コーチが奔走する様子を紹介
11月26日 NHKニュース6 NHK News WEB 感染対策ホストタウンが作成し選手団と合意を
新型コロナウイルス感染症の影響により、感染対策の対応を模索する様子を紹介

2収益事業活動

マシンローイング大会にて払下げエルゴ11台の販売が貢献したものの、朝日レガッタは中止となり、関連事業(Tシャツ販売、出店、ミニFMレンタル)がなく、粗利は24.4万円(アパレル1.3万円、エルゴ15.5万円、NK5.5万円など)で目標の40万円には届かなかった。共通経費と法人税を差し引いた最終収支は6.5万円であった。

2021年度はマシンローイング大会が開催されず、払下げエルゴの販売は見込めない。また、朝日レガッタは開催される方向で進んではいるものの、無観客となる可能性があり、その場合は出店が難しい状況となる。朝日レガッタFM機器レンタルは、ライブストリーミングへの移行を提案しているものの、現時点では採用されるか未定である。

2020年活動まとめ

実施時期	実施場所	事業名	俱楽部員 従事人数	受益対象者
1/19(日) 大会前後数日	滋賀県立体育馆	第32回全国マシンローリング 大会 近畿ブロックA大会	約90名	参加者903名 中学生ボート部員188名 高校生ボート部員226名
2/24(月)	瀬田漕艇俱楽部	定期総会	出席46名 委任51名	正会員168名
4月下旬 (新型コロナで中止)	瀬田川	第35回セタシジミ祭 (ドラゴンボート体験)		
5/3(日) (新型コロナで中止)	瀬田漕艇俱楽部	コーチセミナー		
9/13(日) (新型コロナで中止)	琵琶湖漕艇場	第15回びわこ市民レガッタ		
11/14(土)-15(日) (新型コロナで中止)	瀬田川	第30回Head of The Seta		
7~11月 第2,4日曜日	瀬田漕艇俱楽部 琵琶湖漕艇場	初心者ボート体験教室 (ドラゴンボート利用含む)		一般市民35名 (内ドラゴンボート6名)
1~12月 (4,5月を除く)	瀬田漕艇俱楽部 琵琶湖漕艇場	ジュニアボート教室		地域小学生7名

俱楽部会員数

	会員数 2019年12月31日	1年間の入会数	1年間の退会数	会員数 2020年12月31日
正会員(家族会員)	166 (26)	9(1)	30(3)	145(24)
賛助会員	69	6	6	69
合計	235 (26)	15(1)	36(3)	214(24)

第 20 期

特定非営利活動に係わる事業会計

令和 2年 1月 1日から

令和 2年 12月 31日まで

特定非営利活動法人 濑田漕艇俱楽部
(法人番号 : 1160005001332)

令和2年度「特定非営利活動に係わる事業会計」活動計算書

令和2年1月1日から令和2年12月31日まで

特定非営利活動法人 瀬田漕艇倶楽部

(単位：円)

科 目	金額	
I 経常収益の部		
1 会費、入会金収入		
会費	5,227,500	
入会金	240,000	5,467,500
2 受取寄付金		
賛助金(個人)	402,000	
賛助金(法人)	100,000	
一般寄付金	20,000	
使途指定寄付金	1,595,000	2,117,000
3 受取助成金		
受取補助金	320,000	
	2,000,000	2,320,000
4 事業収益		
マシンローリング近畿大会	1,635,760	
市民教室(体験教室)	70,000	
MR工アロビ教室	18,900	
クラブコーチ事業	657,000	
しがスポーツ大使事業	87,500	
他団体受入事業(合宿等)	283,281	
その他	0	2,752,441
5 その他収益		
受取利息	1,421	
雑収益	22,440	23,861
経常収益 計		12,680,802
II 経常費用の部		
1 事業費		
マシンローリング近畿大会	1,540,635	
市民教室(体験教室)	10,450	
クラブコーチ事業	2,522,640	
その他	0	4,073,725

2 管理費			
給料手当	667,500		
レクレーション費	2,475		
会誌発行費	206,362		
会議費	14,179		
交際費	6,430		
通信運搬費	16,725		
消耗品費	670,048		
保全費	902,676		
施設費	951,247		
水道光熱費	532,788		
減価償却費	3,549,007		
保険料	148,996		
諸会費	27,200		
租税公課	657,500		
支払手数料	11,690		
強化費	58,084		
選手登録費	65,000		
予備費	0		
	8,487,907		
経常費用 計		12,561,632	
当期経常増減額		119,170	
III 経常外収益の部			
経常外収益 計	0	0	0
IV 経常外費用の部			
経常外費用 計	0	0	0
経理区分振替額			
収益事業会計振替額		0	
税引前当期正味財産増減額		119,170	
法人税、住民税及び事業税			
当期正味財産増加額		119,170	
前期繰越正味財産額		94,632,229	
次期繰越正味財産額		94,751,399	

令和2年度「特定非営利活動に係わる事業会計」貸借対照表

令和2年12月31日現在

特定非営利活動法人 濑田漕艇俱楽部

(単位 : 円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1 流動資産	
現金	99,518
普通預金	19,478,083
流動資産 合計	19,577,601
2 固定資産	
建物	31,619,628
構築物	3,136,066
艇	690,719
備品	779,012
土地	24,000,000
固定資産 合計	60,225,425
3 投資その他の資産	
艇庫積立金	15,032,885
長期前払費用	276,216
固定資産 合計	15,309,101
資産合計	95,112,127
II 負債の部	
1 流動負債	
未払金	225,000
預り金	135,728
流動負債 合計	360,728
2 固定負債	
負債合計	360,728
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産額	94,632,229
当期正味財産増加額	119,170
正味財産 合計	94,751,399
負債及び正味財産 合計	95,112,127

第 20 期

収益に係わる事業会計

令和 2年 1月 1日から

令和 2年 12月 31日まで

特定非営利活動法人 濱田漕艇俱楽部
(法人番号 : 1160005001332)

令和2年度「収益事業会計」活動計算書

令和2年1月1日から令和2年12月31日まで

特定非営利活動法人 濑田漕艇俱楽部

(単位 : 円)

科 目	金 額	
I 経常収益の部		
1 事業収益 販売、サービス事業収入	2,241,435	2,241,435
2 その他の収益 預金利息、他	269	269
経常収益 計		2,241,704
II 経常費用の部		
1 事業費 事業収益原価	1,997,456	1,997,456
2 管理費 事務通信費 その他の経費	105,032 2,090	107,122
経常費用 計		2,104,578
当期経常増減額		137,126
経理区分振替額		0
収益事業会計振替額		0
税引前当期正味財産増減額		137,126
法人税、住民税及び事業税		72,200
当期正味財産増加額		64,926
前期繰越正味財産額		5,229,036
次期繰越正味財産額		5,293,962

令和2年度「収益事業会計」貸借対照表

令和2年12月31日現在

特定非営利活動法人 瀬田漕艇俱楽部
(単位 : 円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	159,207	
普通預金	5,146,585	
在庫商品	60,370	
売掛金	0	
流動資産 合計	5,366,162	
資産 合計		5,366,162
II 負債の部		
1 流動負債		
未払法人税等	72,200	
流動負債 合計	72,200	
負債 合計		72,200
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産額	5,229,036	
当期正味財産増加額	64,926	
正味財産 合計	5,293,962	
負債及び正味財産 合計		5,366,162

令和2年度 財産目録

令和2年12月31日現在

特定非営利活動法人 濑田漕艇俱楽部
(単位 : 円)

科 目・摘 要	金 額
I 資産の部	
1 流動資産	
現金・預金	
現金	(一般) 99,518
現金	(収益) 159,207
普通預金 滋賀銀行 石山支店	(一般) 2,314,804
普通預金 滋賀銀行 濑田支店	No (特別) 2,996,083
普通預金 滋賀銀行 濑田支店	(一般) 91,709
普通預金 滋賀銀行 石山支店	(収益) 1,922,676
郵便貯金	普通通帳 (一般) 4,494,072
郵便貯金	大会受付 (一般) 4,264,637
郵便貯金	会費 (一般) 5,316,778
郵便貯金	(収益) 3,223,909
在庫商品(販売商品在庫高)	60,370
流動資産 合計	24,943,763
2 固定資産	
固定資産	
艇庫積立金	15,032,885
建物	31,619,628
構築物	3,136,066
艇	690,719
備品	779,012
土地	24,000,000
長期前払費用(火災保険料他)	276,216
固定資産 合計	75,534,526
資産合計	100,478,289
II 負債の部	
未払金(R2年請求経費分)	225,000
未払法人税等	72,200
預り金(源泉所得税)	127,878
預り金(スポーツ保険 他)	7,850
流動負債 合計	432,928
負債合計	432,928
正味財産	100,045,361